時事新報

驛遞局認可

明治十八年三月廿八日 土曜日
（西暦一千八百八十五年）
第九百二十八號
日曜日休刊

社告

○時事新報講讀御望被成下候ニハ新報代價ニ郵便爲替ニテ必ズ前金ヲ以テ御拂込被成下度候又前金相切レ候ヘハ其日限リ新報ノ發送相見合セ候

○新報代價並ニ郵便稅トシテ御送附相成候金員當方ニテ正ニ落手仕候節其都度ノ通知ハ不申上其代リニ毎日御發送申上候新報ノ帶封表面御名前ノ脇ニ（何月何日）ト記入仕置候間御覽可被成下候此日マデノ新報代價並ニ郵便稅トモ御拂込相成居ルニ付此日マデハ新報發送仕候ト申ス事ニ候

○郵便爲替又ハ銀行爲換等ヲ以テ時事新報代價御拂込被成下候節當方ノ名宛ハ（時事新報社）ト致レ郵便爲換ナレバ（東京日本橋郵便局）ニテ受取ルベキ様御取組被成下度候

○御住所ノ御都合ニテ郵便爲換又ハ銀行爲換等御取組被成下兼候御方ニ限リ時事新報代價並ニ郵便稅共一錢又ハ二錢ノ郵便切手ニテ御拂込被成下候テ苦シカラズ候

○時事新報御購讀ノ諸君ニテ住所御移轉等ノ爲メ新報配達先キ御取替ヘ被成度節ハ新舊兩方ノ所番ヲ幷テ御通知被成下度候

公報

○海軍省達丙第十六號　　海軍一般

横須賀造船所ニ於テ製造ノ葛城艦艦體落成來ル三十一日進水式執行候條此旨相達候事

但當日雨天又ハ風波ナレバ臨時延引更ニ期日相達候事

明治十八年三月二十七日　海軍卿伯爵川村純義

時事新報

明治十八年三月二十七日

富源ヲ深クスベシ

近年我日本國ノ疲弊ハ頗ル甚ダシキモノニシテ恐ナキ人ニテモ一見シテ民間ノ不景氣ヲ知リ得ル所ナリ目下歐米諸國ノ市場ヲ通覽スルニ決シテ諸業繁昌ノ時ト云フベカラズト雖ドモ我日本ノ諸業不繁昌ノ如キハ蓋シ亦例外ノモノト云フベキナリ日本ノ諸業ハ何故ニ斯ク例外ニ不繁昌ナルヤト云フニ一種特別ノ原因アルニ由ルナリ其原因トハ他ナシ十八年來國內ニ使用シ居ル不換紙幣是ナリ明治維新ノ際國用給セズ依テ政府ハ無引換ノ紙幣ヲ發行シテ一時ノ急ヲ凌キ爾後財政未ダ正ニ復セザルニ明治十年又西南ノ騒乱アリ政府ハ止ムヲ得ズ更ニ多額ノ紙幣ヲ發行シテ軍費ヲ補給シ翩々タル紙片ハ恰モ落葉ノ秋風ニ舞フガ如ク澤山ナリ此際不幸ニモ國立銀行ノ仕組漸ク緒ニ就キ全國百五十餘行ノ金庫ハ忽チ落葉ノ無盡藏ト變シ秋風東西南北ニ旋回シテ萬木ノ梢ヲ吹キ狹キ日本國ハ今ニモ朽葉ノ下ニ埋モレンヅ有樣ナリシ此時ハ即チ諸物價騰貴諸業大繁昌ノ折ニシテ浮世榮華ノ夢今正サニ濃カナルノ際ナリシガ爾來漸ク紙幣ヲ銷還シ流通貨ノ額著ルシク減少スルニ隨ヒテ物價ハ下落シ諸業ハ衰頽シ信用ハ落チ金融ハ塞ガリ榮キノ榮華ノ夢ハ消ユテ痕ナク雨雪霏々面ヲ撲チテ凍餒ノ苦ニ堪エザルノ悲境ニ陷リタリ然レドモ維新ノ騒乱ナリ西南ノ戰爭ナリコレヲ凌ガザレバ今ノ日本ノ文明ニ達スベカラズ國事ヲ成スハ費用ヲ要シ其費用ヲ給スルニハ紙幣ヲ發行スルカ國債ヲ募ルカ現金ヲ徵收スルカ致スヨリ外ニ工風ナキモノナルガ故ニ不換紙幣發行ノ爲メ今日我日本國ニ存在スル悲風慘雨ハ明治今日ノ文明ヲ買ヒタル價ナリト思ヘバ強チ苦味一方ノ物ニモアラズ苦中又自カラ一種言フベカラザル妙味アル物トシテ以テ聊カ慰ムベキノミ

全國ノ不景氣斯ノ如シ故ニ日本ノ外ニサヘ國ナク日本ノ安危ニ關シテサヘ心配ナクバ百般ノ國事ヲ中止シテ一概ニ質素退守ノ策ヲ施スニ其工風ナキニシモアラザルベシト雖ドモ如何セン今ノ日本國ハ數百年間鎖國ノ迷夢ヲ覺マシテ新タニ世界文明國ノ列ニ加ハリ他ノ富强先覺ノ人々ト周旋進退シテ此際遲引ナガラ追ニ能ク我獨立國ノ榮華幸福ヲ全クセント熱望スルモノナルガ故ニ其働キノ尋常ナルベカラザルハ論ヲ俟タズ非常ノ國運ニ際スレバ非常ノ働キアルベキ筈ナリ斯ル非常ノ働キヲ爲サントスルニハコレニ相應スルノ費用ヲ要ス今ニ當タリ國用ノ多端ナル避ケント欲シテ避クベカラザルナリ今日ニモアレ敵國外患ノ來リテ我ヲ侵スモノナキヲ必スベカラズ左スレバ未ダ敵ノ來ラザルニ及ビテ陸兵ヲ練リ軍艦ヲ造リ氷雷火ヲ備ヘ砲臺ヲ築ク等皆焦眉ノ急務ナリト云ハザルヲ得ズ條約改正ノ成ルト成ラザルトニ關セズ日本人ハ日ニ益多ク外國ニ往キ外國人ハ日ニ益多ク日本ニ來リ往來雜沓自他ノ交際日ニ益近密ナランカ而シテ東洋二千年來ノ儒敎主義及ビ其陋風俗ハ以テ文明ノ人ト交ハルベカラズ必ズ其敎ヲ變シ必ズ其俗ヲ變シ一身ノ內外總テ文明開化シテ始メテ能ク人ト親ムヲ得ベシ文明ノ學事ヲ進メ文明ノ政治ヲ行ヒ文明ノ風俗ヲ採用スル等亦皆今日焦眉ノ急務ナリト云ハザルヲ得ズ此等ノ急務ヲ急施スルニハ皆其費用ヲ要スルガ故ニ今ノ不景氣ニモ拘ハラズ我日本國民ハ此等文武ノ國用ヲ供給スルガ爲メニ日ニ益其負擔ヲ重クセザルヲ得ザルベシ

然リト雖ドモ單ニ必要ノ國用多シト云ヒテ其都度唯收稅ノ法案ヲ工風スルノミニテハ未ダ以テ國ノ獨立富强ヲ期スルニ足ラズ譬ヘバ猶ホ源泉ナキ水流ヲ汲ムガ如シ速カニコレヲ汲ミテ速カニコレヲ涸ラサンノミ武備モ整ヘザルベカラズ文事モ進メザルベカラズ爲メニ國民ニ課稅シテ其費用ニ供スルハ甚ダ可ナリト雖ドモ此金ヲ取集ムルノ傍ニ又此金ヲ生產スルノ工風ナカルベカラズ課稅ノ增加スル割合ニ富モ亦增加センニハ何程ノ重稅ト雖ドモ決シテ其重キヲ感スルヿナカルベシ今日本ハ國費ノ增加ヲ要ス果シテコレヲ要ストセバコレト同時ニ國民ヲ富マスノ工風ヲ求メザルベカラズ然ラバ則チ之ヲ爲スノ法如何日ク外國貿易ヲ盛ニスルニ在リ、外國貿易ヲ盛ニスルニ種々ノ方策アリ中ニ就キ第一ニ著手スベキモノハ何事ゾ日ク內國ノ運輸交通ヲ便ニスルニ在リ、今ヤ三菱共同運輸兩會社アリテ海運ノ便ハ先ヅ一ト通リ行屆キタリト雖ドモ陸上ノ運輸ニ至テハ馬車ハ勿論人力車ノ便ト雖ドモ尙ホ未ダ國內ニ洽ネカラズ況ンヤ汽船ト相須テ其用ヲ爲ス文明第一ノ要具タル鐵道ニ至テハ各處切レ〳〵ノ線路ヲ續キ合セテモ日本國中ニテ今尙ホ僅カニ百餘里ノ鐵道ヲ有スルニ過キズ運輸便通商路ノ通セザル決シテ怪シムニ足ラザルナリ內地ノ各市場ヲシテ世界東西ノ市場ニ聯絡スルヿヲ得セシメズ坐シテ國民ノ富有ナランヿヲ待タントスルハ亦實ニ木ニ緣リテ魚ヲ求ムルノ類ノミ今ノ日本ハ國用甚ダ多端ナリ國用ノ供給ヲ豐カナラシメント欲セバ國民ヲ富マスベシ國民ヲ富マシメント欲セバ外國貿易ヲ盛ニスベシ外國貿易ヲ盛ニセント欲セバ內國ノ運輸交通ヲ便ニスベシ內國ノ運輸交通ヲ便ニセント欲セバ鐵道ヲ布設スベシ今ノ日本國民ノ利福ヲ增進スルハ蓋シ此鐵道ノ右ニ出ルモノナカルベシ

雜報

○鐵道線路見分　大藏大書記官日本鐵道會社會計監査官平田東助氏は日本鐵道會社會計監査幷に線路見分のため一昨廿六日同社第一區第二區線路へ出張したり

○品川子　同子ハ過般來病氣なるを以て治療の爲め願濟の上官舍を辭し小梅村の自邸に引移りたるおとハ前號の紙上に記載せしが來る五月中まで同邸に於て療用を加ふる都合あるよし

○三池鑛山局長　工部權大書記官小林秀知氏は一昨廿六日工部省に於て三池鑛山局長仰付られたり

○海外往復　長崎縣に於て昨年七月より同十二月に至る六箇月間に下附せし海外旅券の總數ハ百九十三枚にして清國上海行男四十八名、女二十六名、北京行男一名、芝罘行男一名、香港行男八名、女三名、朝鮮國京城行女一名、仁川行男二十五名、女九名、釜山行男十七名、女六名、元山行男三名、露領浦潮斯德行男十一名、女二十一名、北米合衆國紐育行男四名、ボストン行男一名、英國倫敦行男四名、獨逸國伯林行男一名、東洋諸港行男三名なり同歸國のものハ百五十九名にして北京より男一名、上海より男十八名、女二十二名、香港より男二名、女二名、釜山より男十八名、女八名、仁川より男六名、女五名、元山より男二名、女七名、浦潮港より男三十八名、女三十名なり

○長崎停泊の諸國軍艦　露國軍艦ラズボイニック號ハ去る十七日上海より當港に入港し日本甲鐵艦龍驤號は十九日に元山津より來着し又英國軍艦サツフキア號も本日午後上海より入港したるが右の三艦は日本砲艦日進號と共に孰れも港內に投錨し居り此外露國軍艦數艘は更に近日の內に當港に來る筈なり又米艦アレルト號ハ當港を去るべき命令を受けたるに付其代りとしてオスシピー號が當週間內に朝鮮より來着する都合なりと去る廿日の長崎西字新聞に見ゆ

○共同運輸會社　同會社にて新航路を香港に開く企ある由は前號の紙上に記載せしが願濟の上は薩摩丸、山城丸、長門丸、遠江丸四艘を航行せしむると云ふ

○近江麻布の改良　滋賀縣名產の一なる麻布ハ近來廉價の一點に注目して甚た粗製に流れ且つ定尺を短縮し殆んと使用に堪へさるより之を矯正せされは近江麻布の聲價を落すのみならず尙又需要の自然減少するに至らんと各郡の有志者は太く之を憂慮し組合協議を遂けて申合規則をも設け同業者は一般に同幅に織出しのなき麻布は一切賣買せさるおとにおしたるよし

○製茶販賣商社
九州各縣聯合製茶…
に議事も大抵纏り…
まとになりたりと…

○ニユー オルレア…
シヤナ州ニユー オ…
り兩天勝にて爲に此…
は當地最良の氣候…
各地方よりの來觀…
當府例年の祝祭な…
へしと云へり又本…
六日開場より去月…
にかて二千五百三十…
五圓七十錢ありと…

○共同組合　組合員…
ものとなす目的を以…
合と稱する結社ハ設…
去月廿四日ハ本紙上…
害ありと認めらる…
合中重立ちたるもの…
よし鹿兒島よりの近…

○東京府會　一昨廿…
間）前日に引續き…
議長、調藥生ハ孰れ…
）減員修正說を提出…
成すさと此額…
し其初項なる院長の…
を六十番ハ修正も含…
可し六十番ハ修正も含…
に提出する事とす可…
と述べ五十五番（…
十七番（宮本）原案…
六十番の修正消滅を…
）は四番（淺香）の…
して原案に決し、…
）備品幷消耗品費（…
雜費（六圓）は孰れも…
十四圓餘）ハ四十八番…
正說ありしが發…
五分休憩し六時三十…
へ調査委員を置き…
加ふ可しと建議し六…
（笠井）四十八番（角田…
番（大貫）給與せさる…
會は開會以來已に丸…
斯く遷延し居らば規…
きハ至急を要する程…
し十二番（青地）然ら…
爲りね四十八番（角田…
可しとて貴田患者百…
十六番（松田）五十二…
四十八番を贊成し四…
問）ハ決を採らんと…
問したしと述べしが…
も巳に數度の質疑あ…
可しと之を差止めし…
述べしうば終に起立…
更に四十八番の修正…
し四十七番（芳野）自…
（招間）は後日に讓り…
（芳野）其說を引去り…
りに發言を制するは…
六十番の質問を制止…
りと述べたれとも終…
百六十三圓餘）は二十…
費委員の六千五百圓…